

香川大学教育学部からの出前講座①（3年） を実施しました

5月26日、香川大学教育学部から野崎武司先生をお招きし、「**主体的・対話的に学ぶということ**」という演題で、教育創造コースの3年生にご講義いただきました。野崎先生のガイドに従い、交通事故志望者数のグラフを最初の題材として「**プチ探究型学習**」をしてみました。

①ブレインストーミングの練習

友達に言われて、嬉しい言葉を、たくさん挙げなさい！

②交通標語を知っていますか？

(例)「とび出すな 車は急に止まれない」1967年内閣総理大臣賞受賞

③1960年代後半とはどんな時期？

交通事故死者数の推移（昭和23年から令和2年）警察庁 交通事故白書より

④なぜ、1960年あたりから交通事故での死者が増えたのか？

⑤先のグラフからどのようなことが分かるか？

- (1) 高度経済成長の時期に、自家用車の数が飛躍的に増えることで
交通死亡事故の数も増えた。
- (2) 自家用車の数が増えるなどの変化に応じて、信号機などの
交通環境整備が進むことで、交通死亡事故を減らすことができた。

↓
●交通事情の変化に対応して、交通環境を整備していかなければならない！

⑥今日の学習課題

現代の交通事情の変化には、どのようなものがあるか？（ブレインストーミング）

自分を取り巻く状況の変化を感じることで、自分たちが新たに取り組むべき課題を掴む！

⑦ブレインストーミングの結果を絞り込む。

- ・クルマの自動運転技術の発達
- ・電動アシスト自転車など新しい乗り物の登場
- ・高齢者ドライバーの増加 など

⑧各項目について、さらに詳しく調べる。

(例)クルマの自動運転技術とは？

クルマの自動運転と交通事故の実態

⑨まとめ1（探究型学習について）

- 問題発見→情報収集→編集→課題解決（発信）
- 知識・理解と、主体的探究活動を組み合わせて、相乗効果を高める。

⑩まとめ2（なぜ学び合うのか？）

- 自分一人だけの「見方・考え方」だけで生きていけるか？
- 今まで有効だった「見方・考え方」だけで生きていけるか？
- 状況が変化すれば、かつて有効だった「見方・考え方」も無効になる。
- 多様な見方・考え方の交流→新たな手立ての創発！



野崎武司先生、ありがとうございました！